

求める会ニュース No. 974

2月全体会報告

2月19日(水) 10:00~12:30

【検討事項】

1. 会の今後に向けての具体的な動きについて

- ① 会の所持金が無くなるまで現状を続ける
- ② 物品の扱いをやめ、運動のみ続ける。
所持金と会の名前は引き継ぐ
- ③ 会の活動を全てやめ、所持金も名前も引き継がない。

以上3つの案についての、良い点と問題点は、求める会ニュース973号をご覧ください。

(会員の声) 会員の体力、思考能力などを考えると①②案は不安/(記念誌を発行するならば)皆で作業をし、けじめをつけてすっぱりやめる/会を閉じて、会本来の目的に沿った別の活動を続けられたらいい/一応閉じてお金も精算して次の活動をすればいい/お金の処理方法を先ず決め、もし②案を選んでまた閉じる場合は、お金の処理は決めたことに従う/お金は学生青年センターに委ねたらどうか(寄付ということになる)/しっかりした次の目標(例えば学校給食に有機農産品を使う運動など)を決め、それが成った時点で閉じるのはどうか/いまの意見に大賛成。今後も何らかの形で有機農業運動を続けたいが、求める会の名前を残すことには執着しない/会の名前や今後にこだわるよりも各自がやりたい方向で活動するのがいい/次の活動をするにもお金がかかるから②案がいい/③案がいい。実際問題として体力的にももうやっていけない。学校給食の運動などに方向転換すると良いと思う。お金もそのために

使うと良い/名前もお金も次の活動の基になるとよい/③案のすっぱりやめるというのは無理ではないか。次の段階に向けての試行期間が必要/学生センターも閉めることになるようだし、この際すっぱりやめる方がいいと思う。一度やめて、その上で次の活動をするとうまい。

学生センターは2020年の終わりに引っ越しをする予定。センターでの収穫感謝祭は今年が最終になるでしょう。事務的なことや書籍や書類の片付けなど、残務整理に2年はかかるだろうと思っています。

2. 時期代表と世話人の選出について

応募・推薦の期限は3月10日(火)です。

3. 地域集会の持ち方について……東、中央、西の3地域で開きますが、今回は生産者をお呼びせず、会の終わり方について会員間で話し合います。なるべく地域の全会員が参加するように声をかけ合ってください

【報告事項】

◎生産者担当 *野菜…畑のようす→薬物を含め、大根、人参、里芋など豊富にできています。今年は気候変動の予測が難しく、端境期については見通しが立ちません。

*市有研との話し合い…2月8日(土)、学生センターにて(3面に報告記事)。次回は3月28日(土)ライフピア市島にて。

*果物…夏みかん 1箱では2540円→2110円 2箱以上は2290円→1860円になるそうです。是非たくさん注文してください

◎会員担当 2月17日(月)、「"おいしいね!」が育てる元気IV」の味噌作り。(4面に報告記事)

◎渉外担当 •2月16日 兵庫県有機農業

研究会総会、オーガニックの集いに参加。

・2月16日 中村哲さんの追悼上映会に参加しました。

◎お知らせ

3月の全体会は18日（水）です。

食料環境セミナー

「東遊園地ファーマーズマーケット

から広がる新たな農的つながり」

1月22日（水）10:30~12:00

一般社団法人 **KOBE FARMERS MARKET** 理事 小泉 亜由美 さん

小泉さんは、神戸市役所の南にある東遊園地で毎週土曜日に、「ファーマーズマーケット」を開催しておられます。

始まりは、地産地消を促進するためのメディアとして、こんな野菜ができますよ、こんな食べ方がありますよといったことを、ホームページと印刷物で発信するだけでしたが、神戸の町にも豊かな農漁業があることを紹介し、地産地消のライフスタイルを提案するため、生産者と消費者のリアルな出会いの場を作りたいと思いました。

ヒントを得るために、既に25年前にファーマーズマーケットをスタートさせている米国オレゴン州ポートランドへ見学に行かれました。ここで教えられたことは、「樹の下で、毎週やりなさい」ということでした。

そんなとき、東遊園地の活性化を図る神戸市の社会実験に参加する機会があり、2015年春に土曜・日曜の2回、10時から14時まで、同年秋に連続開催で、毎週土曜9時から12時30分までを、合計7回開催されました。

その後、参加した人達からの継続を望む声に押されて、「一般社団法人 **KOBE FARMERS MARKET**」を立ち上げ、やがて社会実験を卒業し、2016年4月からは年間40回以上を開催されました。

内容としては、継続性を重視して会場の設営をシンプルなものにし、生産者が午後は作業に戻れるように午前中の開催とすることなどによって、ファーマーズマーケットが暮らしの中の日常の風景になり、また安定したイ

ンフラとしての機能が果たせることを目指すものでした。

そして、毎週・通年開催することで、さまざまな効果が生まれました。一般消費者だけでなく、レストランのシェフや、カフェを開いている若い人が仕入れに来たり、バイヤーが参加して販路が広がったり、農家と農家の出会いの場となったり、種や苗の交換、栽培方法も含めた情報交換の場となり、農に関心のなかった若者が農の世界に興味を感じたり、若いサポーターが農地へ通うようになったり、そこから人と人との繋がりが広がっていきました。

とはいえ、次世代の農ってあるのだろうか、輸入野菜や工場で作られた野菜ばかりになるのではないだろうか。次に目指すことは、次世代のために「農」が真ん中の場所を都心につくりたい。

農家の子供たちも活躍できる場を、そして町の子供たちも遊びを通じて農を学べる場を作り、一緒に収穫し、食育活動を通じて、農家になりたいと思う子供を育てていきたい。

また農を志す若者には、小さな農家でも構わない、ほかのことをしていても半分は農にかかわるダブルワーク、いろんな考え方、多様な生き方を認め、応援することで、農を身近なものとして捉え、選択肢としてあることを示していきたいと考えておられます。

2018年春には、中央区の北野坂に、野菜を売るスペースとカフェのお店をオープン。最近の取り組みとしては、北区の古い家を拠点にして、東遊園地や北野坂のお店ではできないようなことをやっていきたいそうです。

誰から、何をかうかのという、このローカル・エコノミーをちゃんと回していく、小さな小さな活動を積み重ね、広めていきたいと考えておられるそうです。

(青谷G 吉川 真喜子)

第 27 回九州・山口有機農業の祭典・第 48 回日本有機農業研究会全国総会 合同大会
全国有機農業の集い 2020 in 水俣 水俣に出会いつなぐ つなげる
～水を汚さず、土を汚さず、空気を汚さない 命が宝のあたりまえの社会へ～
2020 年 1 月 25 日～27 日 水俣市文化会館・もやい館

新幹線の新水俣駅から水俣湾に流れる水俣川に沿ってバスで 10 分のところの会場です。到着後すぐにご当地の海鮮が盛られ、温かく蒸したわっぱ飯弁当の昼食です。心温まりました。

● 午後からは理事長の魚住道郎さんの挨拶から始まりました。

日本史上最大の公害事件は私たちの命の生存基盤である森里川海を汚染しました。近代化の付けが地球温暖化をもたらした自然災害の巨大化をもって、私たちに襲いかかっています。今こそ、森里川海を基盤とする有機農業の役割が期待される時です。

● 続いて 4 人のリレートークです。

①「水俣から未来へ」は水俣病の語り部をしながら無農薬の甘夏、チリメン魚。②「水俣私が果たすべき使命」は水銀汚染のメカニズムに取り組み水銀の研究。③「私が皆さんに伝えたいこと」は水俣病の問題解決への行動を続ける。④「水俣病事件と出会って」は水俣患者の支援者として寄り添う。水俣からのメッセージでした。

● 夜の交流会

ビュッフェスタイルの食事です。食材は地元周辺の有機野菜を使用して婦人会らの協力でもとも魅力あふれる色々なお料理でした。蛸が美味しくて獲った漁師さんから聞くことができました。

● 二日目は「大会アピール」の宣言です。

農と食にかかわる私たちは、安全で堅実な方法で生産や消費のありかたを組み立てていく必要があります。特に遺伝子操作を無制限に種の世界に持ち込むことや、ネオニコチノイドなどの大量使用を規制しないで緩和していくような日本農政の在り方は、根本的に変えられるべきです。自然に寄り添いながら耕し、糧を得ていく有機農業の営みは大きな意義を持ちます。さらに人と人との関係を耕し、食べ方が作り方を決め支えていくという、消費者を含めた大きなうねりになっていくことが大切です。有機農業運動は紛れもなく「世直し」の運動でもあるのです。新たな一歩にいきましょう。

大きな事件を経験した水俣から社会変革をと発信されました。同時に私たちにも今まで以上に何ができるか考えさせられました。
(本一 G 福本 志津子)

市有研との話し合い

2020・2・8

参加者 市有研：一色さん・橋本慶子さん

求める会：高橋・西・小浦・岩本・児玉・岡・花岡

於 神戸学生青年センター 14:00～

野菜のこと、畑のこと等をお聞きしました。大根の中の黒いのは土のホウ素不足で、土を入れ替えて作ったら暖冬のせいもあり 3 回目はよい大根ができました（橋本さん）。今年の冬は暖冬のせい、特に葉物の成長が早く、収穫が間にあわない位で、里芋も残りそうな位です。キクイモも豊作でした。キクイモはイヌリンが豊富で、血糖値、血圧を下げ善玉菌を増やすそうで、キュウちゃん漬け、きんぴら、かき揚げ、生でサラダが美味しく頂けるそうです。

3 月に種まきをするので、今年の端境期は早くなりそうとのことでした。

今後の求める会について、野菜の対応は一色さんは個配配送は経験しているので、希望があれば対応できるそうです。橋本さんは基本は提携だが、配送においてはあしの会とも話し合い考えるとのことでした。
(都由乃町 G 花岡 桂子)

3月のカレンダー



- 3月11日(水) 部会
- 3月18日(水) 全体会
- 3月20日(金) 共同購入申込締切日
- 3月23日(月) 自動引き落とし日
- 3月25日(水) 食料環境セミナー

※4日の全体会はありません。

食料環境セミナー

「福島第一原発事故から9年～放射性汚染土の拡散を止めるために」

3月25日(水) 10:30~12:00

神戸大学英語講師 さよなら原発神戸アクション共同世話人 小橋 かおるさん

会場：神戸学生青年センター

参加費：600円

●高齢者を「認知症もどき」にする 鼻水止めの風邪薬



「ヒスタミン」はもともと体内にある化学物質で、鼻の粘膜に作用すると、鼻水やくしゃみを起こします。ところが、ヒスタミンは脳の中において覚醒や学習、記憶に関係する働きもしていて「アルツハイマー型認知症」の患者は重症なほど脳内でヒスタミンが働きにくくなっています。

第1世代抗ヒスタミン薬は、鼻水を止めるほかに、この「脳内のヒスタミン」の働きを妨げてしまいます。「PL 配合顆粒」はそのほかにもさまざまな危険があるので「高齢者には処方すべきではない」との感染症専門医からの指摘もあります(「絶対に医者に殺されない47の心得」岩田健太郎著 講談社)。

また「ピーエイ配合錠」というよく似た名前の総合感冒薬があり、「PL 配合顆粒」と成分がほぼ一緒なので同様の注意が必要です。(毎日新聞:2019年7月12日、稲田さんのML配信による記事から抜粋)

3月全体会議題

1. 会の今後に向けての具体的な動きについて 具体的な動きの決定
2. 総会議題の確認、承認

小松さんを囲んで楽しい昼食会

3月18日(水) 全体会終了後にりんご

の小松さんを囲んで、一品持ち寄りの昼食

“おいしいね!”味噌づくり報告



日時 2月17日(月) 10時~13時

場所 神戸学生青年センター サロン室

参加者：味噌作り 10名 求める会 7名

“おいしいね”シリーズ“お味噌を作る4回目”です。初めての方が4名、後は2回~3回と参加です。一緒に来られた3歳のお子様も丸めて、に参加。嬉しい笑顔。

慣れた方も多いので1時間半程で滞りなく3単位の味噌を仕込みました。ご自分で味噌をすでに作られた方も確認?楽しみ?でワイワイの時間を過ごしました。

お味噌を作ること、もちろんですが、手作り昼食が興味いっぱい、楽しい、美味しいと大好評です。求める会のベテランは凄いです。大豆入りごはん、かぼちゃのすり流し、田楽の他に皆さんの持ち寄りの色々の品々!安全・安心の材料からの手作り。とっても美味しいお昼を頂きながら、一緒に作り方等のお話。若い方から、作り方教えてください、料理教室は開かれないの?勉強になりました、と。コンビニからではなく、ご自分で作って食べて行こうと意欲いっぱい。求める会には入って頂けないけれど食の大切さをご存じだと思いました。(センターG 岡部真理子)

ニュース 973号1面右側に2月26日「オーガニックのつどい」とありますが、2月16日(日)の誤りでした。お詫びして訂正します。